

TEKLYNX®

# CODESOFT®

SETTING THE STANDARD



## CODESOFT 簡単操作マニュアル ～数式変数編～



BRADY 日本ブレイディ株式会社

目次

1	(例)「品番(固定)」+「シリアル番号(可変)」を作成する.....	2
2	(例)「品番(手入力)」+「シリアル番号(可変)」を作成する.....	6
3	(例)チェックデジットを付加する.....	11
4	(例)数字 2 桁の月をアルファベット 1 桁で表す.....	14

CODESOFT®は Teklynx International®の登録商標です。

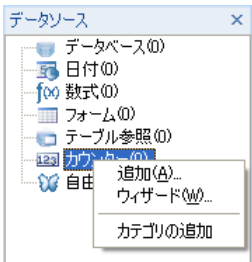
その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

## 1 (例)「品番(固定)」+「シリアル番号(可変)」を作成する

(シリアル番号は0埋め6桁のカウンター値とします。)

- ① まず、シリアル番号用のカウンター変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「カウンター」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



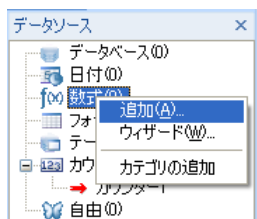
- ② 表示されたカウンター変数のプロパティで必要に応じて初期値、変動範囲を変更し、<OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。



※出力タブで接頭文字、接尾文字、充填文字書式を設定しても、数式変数には反映されません。これらの修飾はカウンター変数単体で使用する場合にのみ有効です。数式変数には純粋なデータ値のみが渡されます。

- ③ 次に、数式変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「数式」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ④ 表示された数式変数のプロパティで「式定義」を作成します。



- ⑤ まず、品番を記述します。固定文字列ですのでダブルクォーテーション(“)で囲みます。

”A0123“

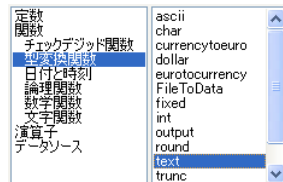
- ⑥ これにカウンター変数を結合しますのでアンパサンド記号(&)を記述します。

”A0123“ &

- ⑦ シリアル番号を0埋め 6 桁で表現するために型変換関数(text)を使用します。画面左下のリストから「型変換関数」を選択し、右側のリストの「text」をダブルクリックします。

式定義には以下の様に表示されます。

”A0123“ & text(《value》, 《format》)



- ⑧ 式定義の《《value》》部分を反転表示させます。

- ⑨ 画面左下のリストからデータソースを選択します。右横のリストに予約変数と現在作成されている変数が表示されますので「カウンター0」をダブルクリックして式定義に追加します。

式定義には以下の様に表示されます。

”A0123“ & text(カウンター0, 《《format》》)



※式定義の<value>部分に直接”カウンター0”と記述しても構いません。

- ⑩ 式定義の<< format >>部分に”~~~~~”と記述します。

”A0123” & text(Counter0, “~~~~~”)



※ データを0埋めする場合、CODESOFT V6 以前では<<format>>部分に『000000』のように記述していましたが、CODESOFT V8 以降は「0」(ゼロ)の代わりに「~」(チルダ)を使用して『~~~~~』と記述します。

- ⑪ <OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

## 2 (例)「品番(手入力)」+「シリアル番号(可変)」を作成する

(シリアル番号は0埋め6桁のカウンター値とします。)

- ① まず、手入力項目用の変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「フォーム」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ② 次に、シリアル番号用のカウンター変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「カウンター」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ③ 表示されたカウンター変数のプロパティで必要に応じて初期値、変動範囲を変更し、<OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。



※出力タブで接頭文字、接尾文字、充填文字書式を設定しても、数式変数には反映されません。これらの修飾はカウンター変数単体で使用する場合にのみ有効です。数式変数には純粋なデータ値のみが渡されます。

- ④ 次に、数式変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「数式」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ⑤ 表示された数式変数のプロパティで「式定義」を作成します。

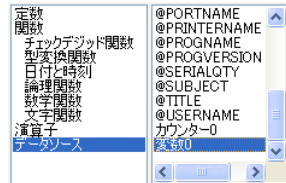




- ⑥ 画面左下のリストからデータソースを選択し

ます。

右横のリストに予約変数と現在作成されている変数が表示されますので、「変数 0」をダブルクリックして、式定義に追加します。



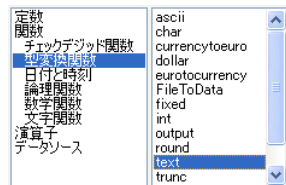
**変数 0**

- ⑦ これにカウンター変数を結合しますのでアンパサンド記号 (&) を記述します。

**変数 0 &**

- ⑧ シリアル番号を0埋め 6 桁で表現するために型変換関数 (text) を使用します。画面左下のリストから「型変換関数」を選択し、右側のリストの「text」をダブルクリックします。

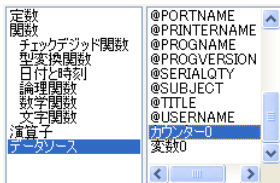
式定義には以下の様に表示されます。



**変数 0 & text(<<value>>, <<format>>)**

- ⑨ 式定義の<< value >>部分を反転表示させます。

- ⑩ 画面左下のリストからデータソースを選択します。右横のリストに予約変数と現在作成されている変数が表示されますので「カウンター0」をダブルクリックして式定義に追加します。



式定義には以下の様に表示されます。

**変数 0 & text(カウンター0, <<format>>)**

※式定義の<<value>>部分に直接“カウンター0”と記述しても構いません。

- ⑪ 式定義の<<format>>部分に“~~~~~”と記述します。

**変数 0 & text(カウンター0, “~~~~~”)**

- ※ データを0埋めする場合、CODESOFT V6 以前では<<format>>部分に『000000』のように記述していましたが、CODESOFT V8 以降は「0」(ゼロ)の代わりに「~」(チルダ)を使用して『~~~~~』と記述します。

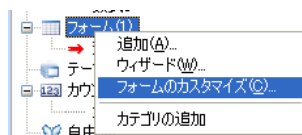
- ⑫ <OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

- ⑬ [表示]メニューの[モード]－[フォーム]を選択します。または、F12キーを押下します。

- ⑭ フォーム画面の入力欄に品番を入力します。



- ⑮ 印刷時にフォームを表示して、品番を変更する必要がある場合は、CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「フォーム」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「書式設定」をクリックして書式設定ダイアログボックスを表示します。



- ⑯ 書式設定ダイアログボックスの「印刷時にフォームを表示」リストから適切な項目を選択し、<OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。



### 3 (例)チェックデジットを付加する

※通常はチェックデジットを意識することはありません。使用するバーコードの設定画面でチェックデジットを指定することにより自動で付加されます。数式変数でチェックデジットを付加する場合は、使用するバーコードで対応しているチェックデジットを使用して下さい。そうしないとバーコードリーダーで読み取りに失敗します。

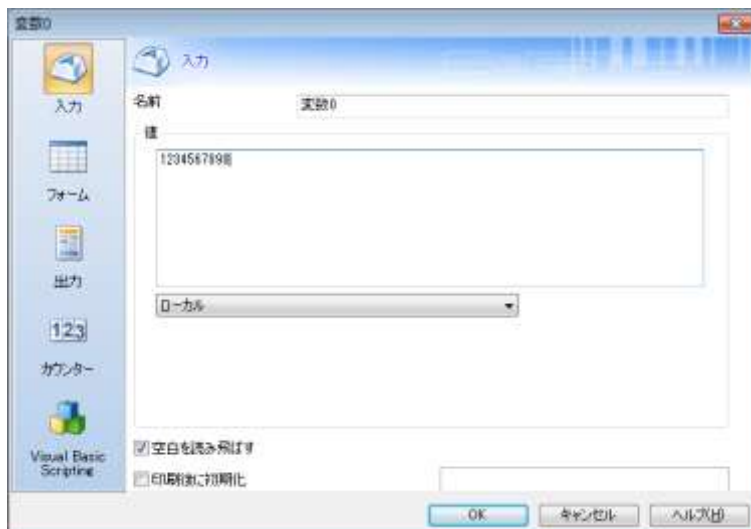
- ① まず、データ用の変数を作成します。

CODSOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「フォーム」または「自由」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。

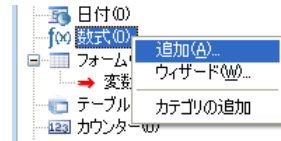


- ② 表示されたフォーム変数のプロパティで、「値」にデータを入力します。

(例: 1234567890)



- ③ 次に、数式変数を作成します。  
CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「数式」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ④ 表示された数式変数のプロパティで「式定義」を作成します。



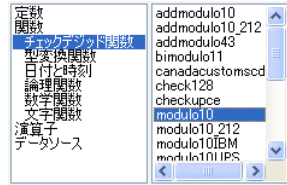
- ⑤ 画面左下のリストからデータソースを選択します。  
右横のリストに予約変数を現在作成されている変数が表示されますので、「変数 0」をダブルクリックして、式定義に追加します。

**変数 0**

- ⑥ これにチェックデジットを結合しますのでアンパサンド記号(&)を記述します。

**変数 0 &**

- ⑦ 画面左下のリストから「チェックデジット関数」を選択し、右横のリストから使用するチェックデジット関数をダブルクリックして式定義に追加します。この例では「modulo10」を使用します。

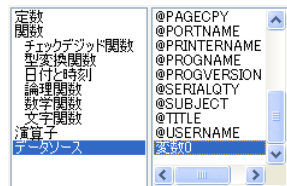


式定義には以下の様に表示されます。

**変数 0 & modulo10(<<string>>)**

- ⑧ 式定義の<<string>>部分を反転表示させます。

- ⑨ 画面左下のリストからデータソースを選択します。右横のリストに予約変数と現在作成されている変数が表示されますので、「変数 0」をダブルクリックして、式定義に追加します。



式定義には以下の様に表示されます。

**変数 0 & modulo10(変数 0)**

- ⑩ <OK>ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- ⑪ 作成した数式 0 変数をラベルデザイン上にドラッグ & ドロップします。

データ「1234567890」と1234567890のチェックデジット「5」が連結されて表示されま

す。

## 4 (例)数字 2 桁の月をアルファベット 1 桁で表す

1 月～12 月(1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12)を

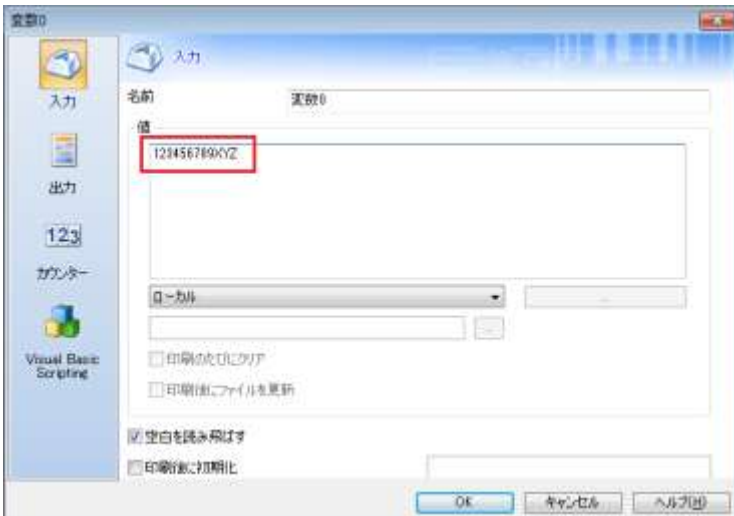
1、2、3、4、5、6、7、8、9、X、Y、Z で表示します。(数字 2 桁を 1 桁のアルファベットで表します。)

- ① まず、データ文字列を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「自由」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。

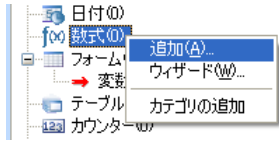


- ② 表示された自由変数プロパティで値に「123456789XYZ」と入力します。

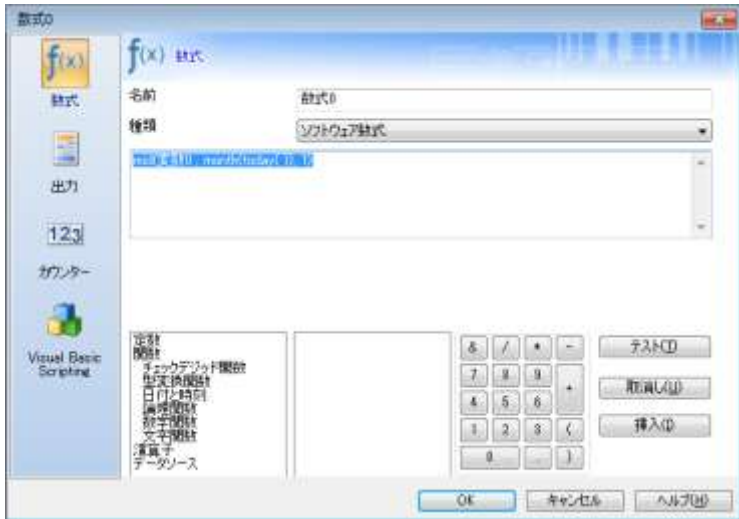


- ③ 次に数式変数を作成します。

CODESOFT 左側のドキュメントブラウザ上の「数式」をマウス右クリックしてポップアップメニューを表示し、「追加」をクリックします。



- ④ 表示された数式変数のプロパティで「式定義」を作成します。



**mid(変数 0 , month(today( )), 1)**

**【使用している関数】**

- mid(<<string>>, <<start>>, <<number>>)関数 :  
string の start 位置から number 桁数を返します。
- month(<<date>>)関数 : 指定した日付の「月」を返します。
- today()関数 : 現在の日付を返します。

従って、「mid(変数 0 , month(today( )), 1)」の意味は、



『「変数 0」の「今日の日付の月の数字」の位置から 1 桁を返します。』

となり、つまりは

『「123456789XYZ」の「10 桁目」から 1 桁を返します。』

となります。(※今日の日付は 2016 年 10 月 29 日とします。)

よって、返されるアルファベットは「X」となります。

以上